

整理番号
229

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	地域住宅計画に基づく事業			担当課	建築住宅課
業務名	-			担当係	住宅管理係
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち		計画期間	令和6年度 ~ 令和8年度
施策項目	4	住宅、定住・移住		事業区分	直営
主な取組	1	住まいづくりに関する指針の策定		-	-
予算科目	会計	款	項	大事業	
	-	-	-	予算計上なし	

目的と方針【PLAN】
暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。

事業概要【PLAN】
福島県住生活基本計画に即して、伊達市の自然、歴史、文化等の特性に応じた住生活を巡る課題を設定し、施策の方向性を提示した伊達市住生活基本計画を策定します。

対象【PLAN】	①市民 ②住宅	意図【PLAN】	①市民が将来にわたって、快適・安全・安心な住まい環境で安定した暮らしを継続する。 ②住宅分野の施策を総合的に推進する。
-----------------	------------	-----------------	--

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
住宅全般の在り方を総括した住まいづくりに関する指針として「伊達市住生活基本計画（仮称）」を策定する。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	0	0	0	0		
	事業費合計	千円	0	0	0	0		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
計画の策定	計画	実績値が目標値以上となること	目標値	-	-	1	1	1
			実績値	-	-			
			達成率	-	-			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	少子高齢化の進展や世帯減少社会の到来、気候変動の影響による自然災害の頻発など、社会情勢の変化に対応し、市民が安全・安心・快適に暮らせる魅力的で持続可能な地域を形成するため、住宅政策に取組むことの優先度は高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	近年、住宅政策を取り巻く課題は、福祉、地域、環境、安全、都市計画、産業振興など多岐にわたっており、本計画の策定により長期的な取組みや関連する関係部署との緊密な連携が可能となる。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	現在未着手。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	住宅や住まいについては、空き家対策、市営住宅の老朽化、住宅の耐震化、住宅確保困難者への対応、移住者の受け入れ、子育て世代、脱炭素社会への適合など多くの課題があるが、個々の部署が各計画や施策に基づき課題解消に取り組んでいる。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
230

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	木造住宅等耐震化促進事業			担当課	建築住宅課
業務名	-			担当係	住宅管理係
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち		計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	4	住宅、定住・移住		事業区分	直営
主な取組	2	民間住宅の住環境向上の支援		-	-
予算科目	会計	款	項	大事業	
	1	8	6	3 木造住宅等耐震化促進事業（住宅、定住・移住）	

目的と方針【PLAN】
暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。

事業概要【PLAN】
耐震性が不足している木造住宅等に対して耐震化を支援するための補助を行います。

対象【PLAN】	①昭和56年5月31日以前に建築された旧耐震基準及び新耐震基準（平成12年5月以前建築他）の木造住宅	意図【PLAN】	①旧耐震基準の木造住宅の所有者が、耐震診断と耐震改修を実施することで、大地震による倒壊被害等を受けない安全・安心な住まいを確保するもの
	②耐震診断により耐震性能に不足があると認められた旧耐震基準の住宅		②危険ブロック塀等の所有者が自ら撤去し、地震等災害時における倒壊事故や緊急車両通行の妨げを防止するもの
③公道等に面した危険ブロック塀等			

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
より多くの市民に対して、耐震化の重要性や本事業の実施を促すため、市のHPや広報、公共施設への掲示等により周知を図る。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	2,184	1,859	2,240	1,762		
	都道府県支出金	千円	858	929	1,120	881		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	196	28	140	28		
	一般財源	千円	4,462	931	6,200	2,929		
	事業費合計	千円	7,700	3,747	9,700	5,600		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
事業の完了戸数	戸	実績値が目標値以上となること	目標値	2	4	6	8	10
			実績値	3	4			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	低額の自己負担で自宅の耐震性能を把握し、次のステップとなる耐震改修に繋げ易いメリットがあり、ブロック塀等の解体、建替えにより、大地震時のブロック倒壊による事故等を回避できる。以上のことから、市民ニーズ、社会的需要や事業として優先度は高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	耐震診断や耐震改修の支援を行うことで、事業対象者の自己負担額を軽減し、市内住宅の耐震化率の向上に繋がる事業効果が期待できる。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	募集方法の見直しや申請事務の改善により、前年度よりも事業実施に要した期間が短縮した。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	市民に対し、耐震化の重要性や制度の活用に係る啓蒙・周知を図りながら、今後も、国・県の補助事業を活用しながら継続して木造住宅等の耐震化を促進するための事業に取り組んでいく。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
231

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	空き家対策事業				担当課	協働まちづくり課		
業務名	-				担当係	移住定住推進係		
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち			計画期間	令和6年度 ~ 令和8年度		
施策項目	4	住宅、定住・移住			事業区分	直営		
主な取組	2	民間住宅の住環境向上の支援			-	-		
予算科目	会計	款	項	目	大事業			
	1	8	6	3	空き家対策費			

目的と方針【PLAN】
暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。

事業概要【PLAN】
空き家を発生させないための未然防止策や空き家バンクの運用による空家等の利活用など、伊達市空家等対策計画に基づき取組を進めます。

対象【PLAN】	空き家所有者等	意図【PLAN】	周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないよう空き家の適切な管理に努めるとともに利活用を行う。
-----------------	---------	-----------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
空き家の適切な管理は所有者等自らの責任において対応することを原則とし、自治体として空き家対策に必要な施策を推進する。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	0	0	124	345		
	事業費合計	千円	0	0	124	345		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
空き家バンク登録物件数(累計)	件	実績値が目標値以上となること	目標値	52	54	56	58	60
			実績値	56	61			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	適正な管理が行われていない空き家が地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしており、安全・安心な住環境の確保のための空家対策が求められている。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	空き家の増加を抑制するため、空き家の利活用に関する施策を拡充していく必要がある。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	空き家改修のための補助制度は国県補助等を活用し制度設計を行っている。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	拡充	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	「伊達市空家等対策計画2期計画」に基づき、引き続き、空き家バンクの運用による空家の利活用などを推進していく。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
233

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	市営住宅維持管理事業				担当課	建築住宅課		
業務名	-				担当係	住宅管理係		
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち			計画期間	令和6年度 ~ 令和8年度		
施策項目	4	住宅、定住・移住			事業区分	直営		
主な取組	3	市営住宅の適正管理等の推進			-	-		
予算科目	会計	款	項	目	大事業			
	1	8	6	1	市営住宅維持管理事業（住宅、定住・移住）			
目的と方針【PLAN】	暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。							
事業概要【PLAN】	住宅に困窮する低額所得者に低廉な家賃で市営住宅を賃貸するとともに施設の適正な管理を行います。 ・入居者募集、家賃の徴収 ・建物等の修繕 ・給水設備、浄化槽設備、消防用設備の保守点検、建築設備定期点検 ・建物と設備の改修及び修繕 ・老朽住宅の解体							
対象【PLAN】	①入居者 ②市営住宅			意図【PLAN】	①健全な住まいを提供する。 ②住宅を賃貸することで、市民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。			
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	公営住宅法に基づき整備した市営住宅を、安全で快適な住まいとして継続的に供給するため維持保全を行う。							

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	61,961	16,294	60,808	8,344		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	92,041	40,861	90,681	39,521		
	一般財源	千円	5,058	0	1,960	0		
	事業費合計	千円	159,060	57,155	153,449	47,865		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
老朽住宅の解体	戸	実績値が目標値以上となること	目標値	16	24	26	28	30
			実績値	16	21			
			達成率	100.0%	87.5%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	経常的な修繕や管理、長寿命化計画に基づく大規模改修など施設の維持保全は、入居者に対して安全で快適な住まいを供給するための重要な手段であり、事業の優先度は高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	住宅の老朽化により、施設修繕の頻度が高くなっているものの、きめ細かな修繕をすることで、入居者に対して継続的かつ健全な住宅の供給が期待できる。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	予防保全として実施する大規模改修は、長期的なランニングコストの削減となる。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	長寿命化のための大規模改修は、建物の内外部、住宅設備や外構部に及ぶ整備が求められるが、入居者がいる状態では住戸内の改修ができないこと、事業費が高額になることが課題となり、実態としては外部のみの修繕に止まる。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
234

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	全世代・全員活躍のまち事業			担当課	協働まちづくり課
業務名	-			担当係	移住定住推進係
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち		計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	4	住宅、定住・移住		事業区分	直営
主な取組	4	関係人口の創出による移住希望者の掘り起こし		-	-
予算科目	会計	款	項	大事業	
	1	2	1	8	企画諸費

目的と方針【PLAN】
暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。

事業概要【PLAN】
高子駅北地区において、交流施設やお試し居住施設等の整備を行い、誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくりを進めるとともに、移住促進のための就業体験等の支援を行います。

対象【PLAN】	子どもから高齢者などの全世代	意図【PLAN】	健康な時から社会参加を通じて、役割や生きがいを持ち生涯活躍することで、元気に暮らせる。
-----------------	----------------	-----------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
CCAC施設を拠点として、「農業」・「福祉」・「健幸」を基軸とする多世代交流プログラム等を官民連携により実施する。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	2,260	99,500	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	3,220		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	2,000	0	0	0		
	一般財源	千円	569	121,654	340	1,831		
	事業費合計	千円	4,829	221,154	340	5,051		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
多世代交流イベント参加者数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	24	48	48	48	48
			実績値	44	75			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	地域活動の担い手が不足する中、若者のニーズや地域を超えた交流活動が図られ、そのニーズは高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	地域住民や団体などの自由な活動の場として、CCAC施設が活用されており、多世代交流が図られている。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	民設民営による施設運営により費用を抑制することができた。また、民間のノウハウを活かした地域活動などを進めており、官民連携での効率的な運営が行われている。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	拡充	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	令和5年10月にCCAC構想の拠点となる施設がオープンし、官民連携により多世代交流プログラムを推進してきた。今後は、安定した施設運営に向けた取り組み等について検討が必要である。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
235

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	ふるさと交流プロジェクト事業				担当課	協働まちづくり課		
業務名	-				担当係	移住定住推進係		
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち			計画期間	令和6年度 ~ 令和8年度		
施策項目	4	住宅、定住・移住			事業区分	補助		
主な取組	4	関係人口の創出による移住希望者の掘り起こし			-	-		
予算科目	会計	款	項	目	大事業			
	1	2	1	12	地域振興諸費			

目的と方針【PLAN】	暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。							
事業概要【PLAN】	高子駅北地区CCAC施設等を拠点に、ハロハロマーケットの朝市や草木染め体験、県内外の学生による寺子屋教室などの交流事業を進めます。							
対象【PLAN】	県内外の学生等			意図【PLAN】	市内の子どもたちや地域住民との交流により、伊達の魅力の再発見と伊達市に継続的に関わる「関係人口」が創出される。			
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	市内事業者等が主体となって取り組む地域交流プログラムを支援する。							

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	3,173	3,266	2,403	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	1,588	1,634	1,202	0		
	事業費合計	千円	4,761	4,900	3,605			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】								
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
高子ハロハロマーケット来場者数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
			実績値	1,490	3,780			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】								
評価視点				評価の結果				
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 			地域活動の担い手が不足している中、県内外の学生が地域住民と交流することで、担い手の創出や地域の活性化につながるため、そのニーズは高い。				
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 			地域貢献活動として県内外の学生等が積極的に取り組んでおり、また、子どもたちや地域住民との交流が促進され、その満足度は高い。				
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 			地域交流プログラムに参加する人数が増加している中で、効率的な運営ができています。				

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】								
今後の方向性	統合	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など		地域交流活動が活性化し、地方創生のモデルとなる取り組みである。今後は全世代・全員活躍のまち事業に統合し、事業を継続する。				

整理番号
236

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	移住・定住促進事業（再掲）			担当課	協働まちづくり課
業務名	移住定住に関する情報発信業務			担当係	移住定住推進係
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち		計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	4	住宅、定住・移住		事業区分	一部委託
主な取組	4	関係人口の創出による移住希望者の掘り起こし		—	—
予算科目	会計	款	項	大事業	
	1	2	1	8	企画諸費

目的と方針【PLAN】	暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。				
事業概要【PLAN】	地方への移住希望者をターゲットに、伊達市移住促進ポータルサイトや移住コンシェルジュによる情報発信等を行います。				
対象【PLAN】	地方移住希望者	意図【PLAN】	市内に移住することで、地域の担い手となり地域が活性化される。		
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	移住希望者向けに伊達市の魅力発信や相談対応、移住のための支援等を行う。また、安心して定住できるよう、移住後のフォローアップを行う。				

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	1,626	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	4,350	2,350	8,850	13,330		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	2,000	0	0	0		
	一般財源	千円	7,044	12,122	16,635	21,124		
事業費合計		千円	15,020	14,472	25,485	34,454		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
移住者数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	30	30	35	35	38
			実績値	28	93			
			達成率	93.3%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	都内にある移住相談窓口「ふるさと回帰支援センター」では、福島県への移住に関する相談が年々増加しており、また、県内移住者数も過去最多となる等、移住に対するニーズは増え続けている。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	地方移住希望者が増える中、必要な支援情報をわかりやすく伝え、相談対応や支援等を切れ目なく行うことが効果的である。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	情報発信や移住相談等の一部業務を委託することで、スピーディーな対応と効率的な運営ができています。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	拡充	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	地方移住希望者が増える中、数ある自治体の中から伊達市を選択してもらえるような戦略が必要である。また、市と委託事業者との連携を密にし、移住後のフォローアップを充実していく必要がある。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
237

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	移住・定住促進事業（再掲）				担当課	協働まちづくり課		
業務名	関係人口・移住定住促進業務				担当係	移住定住推進係		
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち			計画期間	令和6年度～令和8年度		
施策項目	4	住宅、定住・移住			事業区分	一部委託		
主な取組	5	定住・移住に関する相談・支援体制の強化			—	—		
予算科目	会計	款	項	目	大事業			
	1	2	1	8	企画諸費			

目的と方針【PLAN】	暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。							
事業概要【PLAN】	移住コンシェルジュや定住支援員による相談対応を行う。また、移住者向けの住宅取得や空き家バンク物件のリフォーム補助などの支援により、移住定住を促進します。							
対象【PLAN】	地方移住希望者			意図【PLAN】	市内に移住することで、地域の担い手となり地域が活性化される。			
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	移住希望者向けに伊達市の魅力発信や相談対応、移住のための支援等を行う。また、安心して定住できるよう、移住後のフォローアップを行う。							

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	1,626	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	4,350	2,350	8,850	13,330		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	2,000	0	0	0		
	一般財源	千円	7,044	12,122	16,635	21,124		
	事業費合計	千円	15,020	14,472	25,485	34,454		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
移住コンシェルジュへの相談人数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	—	35	40	40	40
			実績値	—	40			
			達成率	—	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	都内にある移住相談窓口「ふるさと回帰支援センター」では、福島県への移住に関する相談が年々増加しており、また、県内移住者数も過去最多となる等、移住に対するニーズは増え続けている。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	地方移住希望者が増える中、必要な支援情報をわかりやすく伝え、相談対応や支援等を切れ目なく行うことが効果的である。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	情報発信や移住相談等の一部業務を委託することで、スピーディーな対応と効率的な運営ができています。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	拡充	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	地方移住希望者が増える中、数ある自治体の中から伊達市を選択してもらえるような戦略が必要である。また、市と委託事業者との連携を密にし、移住後のフォローアップを充実していく必要がある。
--------	----	-------------------------	--

整理番号
238

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	だて婚活支援事業			担当課	協働まちづくり課
業務名	-			担当係	協働推進係
基本目標	5	便利で快適に暮らせるまち		計画期間	令和6年度 ~ 令和8年度
施策項目	4	住宅、定住・移住		事業区分	一部委託
主な取組	5	定住・移住に関する相談・支援体制の強化		-	-
予算科目	会計	款	項	大事業	
	一般	2	1	8	だて婚活支援事業

目的と方針【PLAN】	暮らしの基盤となる快適・安全・安心な住まいの確保に向け、民間住宅の住環境向上の支援や市営住宅の適正な管理に努めるとともに、定住・移住の促進に向け、関係人口の創出による移住希望者の掘り起こしときめ細かな支援に努めます。				
事業概要【PLAN】	婚活セミナーを開催するほか、民間団体による婚活イベントを補助支援する。また、新婚世帯を対象として伊達市に居住するための住宅取得等費用を補助します。				
対象【PLAN】	結婚希望者、婚活事業を実施する民間団体、新婚世帯	意図【PLAN】	結婚希望者や新婚世帯への支援を行い、出会い・結婚に繋げることで、本市での出産・子育て・定住促進を図る。		
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	結婚希望者が必要なスキルや知識の学習の場を提供するほか、結婚に対する不安を軽減すること。				

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	1,300	4,949	5,534	6,842		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	2,723	3,134	2,887	7,382		
事業費合計		千円	4,023	8,083	8,421	14,224		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
だて結婚新生活支援事業補助金を活用した新婚世帯数	数	実績値が目標値以上となること	目標値	16	20	20	20	20
			実績値	21	26			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	現代における少子化や婚姻率の低下は大きな問題であり、市民からは婚活事業を求める声もあるため、市民ニーズ、社会的需要は大きく、事業優先度は高い。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	婚活セミナーでのアンケートにおいて、婚活に対し自信がついた参加者の割合が87%となったことから市民満足度は高い。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	新婚世帯の補助金について、実績報告を兼ねた申請様式にすることで、申請者の手続きを削減し、内部事務における時間も削減している。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	婚活セミナー事業では、マッチングイベントを合わせて開催したが、セミナーの要素が強いこともあり、女性の参加者が少ない結果となった。参加者からも出会いの場を求める声があったため、次年度は婚活イベントをメインとして開催し、出会いの場の提供を行っていく。
--------	----	-------------------------	---